

令和4年度（2022年度） いわみ西保育所拠点事業報告

《いわみ西保育所》

I. 事業総括

《保育方針》

- ◎一人ひとりの子どもの育ちを支えるように努めました。
(現在をもっともよく生き、望ましい力の基礎を培うことを目指しました)
- ◎保護者の子育てを支えるように努めました。
(保護者の意向を受け止め、子どもと保護者の安定した関係に配慮し、援助することを目指しました)
- ◎子どもと子育てに優しい地域を作るよう努めました。
(地域とのふれあいや連携を図ることを目指しました)

II. 事業目標に対する評価

1. 利用者サービスの充実

KGI(最重要目標指標)	指標の名称	指標値	実績
	非認知的能力の育成	—	—

保育所保育指針に基づいて、養護と教育を一体的に展開しながら保育を進めてまいりました。子どもたちが安心して過ごせる環境の中で愛着形成を育み、自己肯定感を高められるように、常に肯定的な言葉がけと寄り添う気持ちで関わりを深めてきました。「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を最終的な目標ととらえて、それぞれの年齢で押さえておくべきポイントを計画として掲げ、年間計画に沿って取り組みを進めました。ただ、子どもたちの成長を数値としてあげることは難しく、一年間だけで数値を出すべきものではなく、長い年月の先に実績として上がることを期待し、ここでは数値は示しません。

2. 地域社会との関係性強化

KGI(最重要目標指標)	指標の名称	指標値	実績
	地域社会との関係性強化	—	—

地域に育まれる保育所として、地域の方との交流を深めることを目標としていましたが、今年度も新型コロナウイルスの感染拡大が収まらず、交流事業は幾つか控えることになり、目標を達成することは難しくなりました。交流が行えた時には地域の温かさを感じ、喜びの声をいただき、地域交流の必要性を改めて強く感じました。数値は掲げておりませんが、現状が変われば地域との関係性の強化は引き続き取り組んでいきたいと思っております。

3. 生産性の向上

KGI(最重要目標 指標)	指標の名称	指標値	実績
	人時生産性	2.15 千円	2.23 千円
	労働生産性	4,109 千円	3,938 千円

人時生産性は、労働時間管理及び業務効率に努め、計画指標値をクリアしました。労働生産性は、計画通り人員体制を維持しましたが、途中入所の園児が2名、入所予定の0歳児の入所が取り止めになる等、収入減が影響し達成率95.8%の結果となりました。

III. 計画事業の総括

1. サービス事業への取り組み

クラス担任制ではありますが、保育所全体で子どもや保護者を支えていこうと、常に情報共有しながら関わりを持ってきました。乳児期では、子どもたちが安心して過ごせる環境の提供、保護者には初めての集団生活に対する不安を感じさせることなく、安心して預けることができる環境の提供を行ってまいりました。保育計画では、乳児期に培った信頼関係をもとに、さまざまな活動や働きかけを行い、子どもたちの成長を支えるように努めました。子どもに対しては、常に愛情を持って接し、気持ちに寄り添うことを大切にし、一人ひとりの違いを認めながら保育を行いました。肯定的な言葉がけの中から子どもたちが自分を大切に感じ、自己肯定感を高めながら過ごせることを目指しました。

新型コロナウイルスの関係で、行事などは縮小や中止もありましたが、子どもの育ちに必要活動は継続し保護者の方へも情報発信を行いました。共に子どもたちの成長の喜びを感じられ、より質の高い保育が提供できるように進めてまいりました。ICTシステム（「はいチーズ」）を有効に活用して、子どもたちへの直接的な関わりを増やし、保護者へ保育状況の発信なども行ってまいりました。

また支援の必要な子どもたちへの関りを大切にしながら、保護者の悩みや心配事にも寄り添い、関連機関と連携し、安心できる保育所生活を提供するように努めました。

2. 人財育成への取り組み

今年度も新型コロナウイルスの影響で、外部へ出かけての研修は難しかったですが、オンラインでの研修が定着し、研修によっては多くの人数で受けることもできるようになり、オンラインの良さがより活用できています。

法人内研修のマネジメント研修では、部下とのフィードバックミーティングを実践しながら、目標の伝え方やそこへ向かうまでの方法や取り組みなど、日々の

業務に対する姿勢などの考え方が変わったことで、職場の雰囲気や職員の意識も変わり始めています。これまで行ってきたことを振り返り、継続的に行うのではなく、自分たちの考えを打ち出し、より良い保育を提供するために、どうしていくべきかを自分たちで考えることが出来るようになってきており、この状況を大切にしながら人材育成、業務改善、職員の質の向上へと繋げていきたいと思えます。

3. 地域との関係強化への取り組み

今年度も新型コロナウイルスの感染状況により、ボランティアの受け入れなどは、中止となったりすることはありましたが、小康状態の時には感染対策を取り入れながら、ボランティアの受け入れや交流行事を実施しました。高齢者交流では子どもたちから元気をもらえたと喜びの声をいただき、コロナ禍であるがこそ、交流の重要性を改めて感じました。交流などが減少したところは、SNSを利用したのインスタグラム発信などを行い、地域への発信・情報提供へと繋げました。

4. 生産性向上への取り組み

ICTシステム（「はいチーズ」）を導入して一年経過し、事務業務の簡素化や時間短縮にも繋がり、勤務時間内で効率的に業務を進めることが出来ました。しかしながら、今年度も新型コロナウイルスは収まらず、職員が家族の濃厚接触者となる等急遽自宅待機を余儀なくされ、早番遅番体制が整わず、限られた職員に残業を要請することもありました。年間を通して職員体制が厳しく、ICTを効果的に活用出来ましたが、生産性を高めるまでに至らず、乗り切ることによって精いっぱいだった部分もあります。

若い職員の育成が順調に進み、勤務年数が浅い職員でも保育を担うことが十分可能であり、人材育成が生産性の向上（人件費の抑制）に繋がってきていると感じます。

5. 施設整備への取り組み

事業計画に掲げたものは予定通り行うことが出来ましたが、計画以外での修理を要したケースもありました。建物は18年が経過していることもあり、今後も修理箇所が増えていくことが考えられます。また一部の照明をLEDへ切り替えましたが、電気代などの燃料費の高騰もあり、他の照明のLED化も計画的に進めていかなければと考えています。

令和4年度に実施した個別の事業の詳細及び成果等は以下の通りです。

【サービス事業】

1. 利用者（入所者）状況

(1) 利用率・稼働率

定員数	計画数	実績	利用率・稼働率 (KPI)
120名	104名	103名	85.8%

(2) 利用者構成状況

クラス別	計画数	実績数	差異
0歳児	12名	11名	-1名
1歳児	16名	16名	—
2歳児	13名	13名	—
3歳児	21名	20名	-1名
4歳児	32名	32名	—
5歳児	10名	11名	+1名
計	104名	103名	-1名

2. 実施サービス

計画上の事業	実施した内容・成果等
<p>《養護》</p> <p>生命の保持</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・清潔で安全な環境を提供しました。今年度も新型コロナウイルスの感染は収まらず、安全性だけではなく、感染予防対策にも力を入れ、コロナ禍での保育所運営継続を目指しました。しかし、一度感染が確認されれば拡大を止めることは出来ず、8月下旬には保育所を休所することになりました。その後も感染者が確認され、クラス単位での休所もありました。重度化する園児はなく、待機期間後は元気に登園することができていました。 ・日々の生活では、一人ひとりの生活リズムを大切にしました。また、身の回りの事が自分でできるように、それぞれの年齢に合った支援を行い基本的な生活習慣の確立に向けて取り組みました。
<p>情緒の安定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児期の愛着形成が育まれるように関わってきました。

	<p>自分は愛されていると感じることが出来るよう、一人ひとりの関りを大切にしてきました。親と早くから離れて過ごす子どもたちにとって安心できる場であり、保護者も安心して預けることができるような保育所を目指し、落ち着いて過ごせる環境を提供できたと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児には常に肯定的な言葉がけを心掛け、自己肯定感が育まれるような関りを持つようにしました。子どもたちとの信頼関係を築き、心身の調和や安定感を図った上でいろいろな経験を積ませ、自発性や探求心、挑戦する気持ちを育てるような支援を行いました。子どもたちの成長は一人ひとり違いますが、それぞれの成長の姿は見ることができました。
<p>《教育》 健康</p> <p>食育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「元気な体作り計画表」に基づき、クラス別に目標をもって、年間を通して様々な運動やあそびを取り入れてまいりました。乳児期は、安全な環境の下で成長に必要な動きや活動を意図的に行い、運動機能を高める支援を行いました。個人差はありますが、活動範囲を広げながら取り組むことができていたと思います。 ・ 幼児期では、「しゃきっと座ろう体操」を継続して行うことで、体幹を鍛えるなど日々の積み重ねを大切にしてきました。また、様々な運動遊びを取り入れることで、身体だけでなく、頑張ろうとする気持ちや挑戦する気持ちを育てるようにしました。 ・ 自然豊かなこの地での自然の中での遊びも取り入れてまいりました。野草茶づくりに必要な野草集めに散歩に出かけ、深篠川遊びや、金毘羅さんの山登りなど、身近な場所での自然遊びを経験しました。地域内を歩くことで、地域の方に元気な子どもたちの姿を見ていただくことも出来ました。日貫川での川遊びは雨による増水で実施出来ませんでした。 ・ 毎日の給食を通して、食べることの楽しさや、いろいろな食材を食べられることができる感謝の気持ちを育てること、食に対する興味を高めるなど様々な食育活動を行ってまいりました。0歳児では安心した雰囲気の中で、

人間関係	<p>食べる事ができ、また自分で食べようとする意欲なども育てるように関わってきました。そこを基本として、好き嫌いなく何でも食べるようになること、食具を使って食べる事が出来るようになること、また就学前には、時間内で食べることや姿勢よく食べられること等、ルールやマナーについても知らせていきました。忙しい保護者にとって、子どもたちがしっかりと食べ元気に過ごせることは何よりうれしいことではないかと考え、子どもたちの姿を伝えることも大切に行いました。5～6年間で保育所で過ごす中で、卒園児にはほとんどの子どもが、なんでも食べることができるようになっていくことを嬉しく思っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畑やプランターを利用して野菜を育て、自分たちで食材を切り、料理することを経験しています。収穫の喜びや自分たちで作ったものを食べる喜びから、食に対する興味関心を高め、食べることへの意欲にもつなげていきます。 ・保育所での取り組みを保護者に伝えることで、保護者の食に対する意識も変わってきています。食の大切さを伝えることで、子どもの成長を共に支えていくことができると願っています。 ・人と人とのつながりを大切に考え、乳児期にはしっかりとした愛着の形成を目指し、幼児期は自己肯定感が育まれるような関わりを持つように心掛けました。担任との信頼関係が構築できたうえで、子どもたちが安心して様々な活動に取り組めるようにしました。 ・幼児期には友だちとの関係のなかで、協調性や思いやりが育つように、一人ひとりの違いを認め、自分らしくいられることを大切にしました。一人ひとりが違うことを理解することで、他人と比べなくてもよいことや、違いがあることを非難することがなくなり、いじめへ繋がることもなくなると考えています。 ・異年齢児の交流を通して、家庭では出来ない人との関わりを経験するようにはしました。小さい子どもとの触れ合いの中から、優しくすることを学び、お世話をすることに
------	--

環境	<p>よって自分が人の役に立つことを感じる事ができます。そのような関りの中から社会性も身に着けていくことができたのではないかと思います。新型コロナウイルスの感染状況が悪化している時には、保育所内でも交流を控え、クラス単位での活動となりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心安全に過ごせる環境の提供を行いました。守られているという安心感の中で、探索活動を広げ、周りの物事に興味関心が持てるようにしました。また、それぞれの年齢に応じた保育の環境(生活の流れがスムーズに行える環境、年齢に合ったあそびの環境など)を計画的に考え、実施しました。 ・社会事象や自然事象への興味、関心が高まるような言葉がけを行い、活動を取り入れるようにしました。今年度も新型コロナウイルス感染症対策により、活動範囲は限られましたが、保育所内でできることを考え保育の中に取り入れるようにしました。子どもたちの成長を支える環境については、職員間でも話し合いの場を持ち、改善などを定期的に行うように努めました。
言語	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児期には言語の獲得をめざし、場面に応じたさまざまな言葉がけを行ってまいりました。また言葉のやりとりから、人との関わりを深めることにもつなげていきました。子どもたちの語りかけはしっかりと受け止め、やり取りの楽しさ、言葉で伝えることの喜びが感じられるようにしました。 ・絵本などを通して、言葉の広がりややりとりの楽しさを知り、そこから想像力を広げ、他人の気持ちを考えることへ繋げていくことを大切にしました。 ・幼児期には聞くことの大切さも知らせ、就学に向けて人の話を聞くことができる、自分の思いを伝えることができるようにしました。 ・言葉のやりとりから、言葉や文字に興味を持つようにし、文字や数字の理解へも繋げていきました。また保護者にも読み聞かせや、子どもとの会話を広げることを協力してもらおうように言葉のやりとりの重要性を伝えるように

<p>表現</p>	<p>しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由な表現と豊かな感性を育てるために、乳児期から保育者は表情豊かに関わることを心がけました。 ・身体機能を使つての表現遊びが出来るように環境を整えリズム遊びなどを取り入れてまいりました。子どもたちが表現することを常に肯定的にとらえ、自分らしい表現が出来ることを大切にしました。 ・絵画・制作活動を通して自分らしく表現する経験をできるようにしました。のびのびと表現できるように、いろいろな素材を準備し、様々な活動を取り入れました。自分なりの表現を認めてもらい、子どもたちも嬉しそうでした。講師によるアートデーも計画しておりましたが今年度は新型コロナウイルスの感染状況が悪化し、12回予定していたものが7回の実施となりました。 ・おたのしみ会での発表は、それぞれの年齢の目指すところの目標に向かい、自分なりに頑張り、友だちと一緒にやり遂げた達成感を感じる事が出来、大きな自信へとつながっていたと思います。
<p>《災害時の備え》</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に沿って毎月一回の避難訓練を実施しました。訓練後に内容を検討し、改善点を話し合うことで、より現実的に取り組むことが出来ていたと思います。 ・BCPについても再確認し、役割の確認などを行いました。 ・備蓄管理も問題なく行えておりますが、備蓄食の賞味期限が近づいているため、更新を検討しています。
<p>《特別保育事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一時預かり事業 ・体調不良児保育 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染予防対策として、町内の方の受け入れについては変わりなく行いましたが、他県からの受け入れについては、自宅で一週間程度待機してもらってから受け入れました。 ・育児に疲労を感じている保護者の支援を行いました。 ・新型コロナウイルスの感染予防対策が徹底されていた事と邑南町役場からの依頼(体調不良が見られる時には、なるべく自宅で過ごしてほしい)もあり、利用数は昨年程度でした。

<ul style="list-style-type: none"> ・障がい児保育 ・保護者の子育て支援を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当看護師が感染予防対策に気を配り、玩具消毒、換気など衛生面が十分配慮され、安心して任せることが出来ました。 ・今年度は、邑南町役場からの補助金対象者の園児はおりませんでしたが、配慮を必要とする園児については、関係機関と連絡を取り合い、寄り添いながら保育を進めてまいりました。また保護者の不安な気持ちにも寄り添い、情報を共有しながら支援を行いました。 ・保護者の子育て支援として、気になる事がある時や保護者が不安に感じている事、問題がある時には随時面談を行いました。また、保育所だけで解決できないような時には関連機関を紹介し相談会を実施しました。 ・保護者全員との個人懇談を実施しました。
<p>《その他の行事》</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではありましたが、子どもたちの成長の姿を見てもらう場として、運動会・おたのしみ会・参観日・夕涼み会など保護者参加の行事を行いました。時間短縮や規模の縮小はありましたが、子どもの成長を見て頂き、成長の喜びを共有することが出来ました。また子どもたちにとっては、成長した姿を保護者から褒めてもらうことで、自信を持ち、次へのやる気へと繋がる良い経験となったと思います。

3. 人員体制の状況（常勤換算）

職 種	計 画		実 績		差 異	
	正 職	非 正 職	正 職	非 正 職	正 職	非 正 職
所長	1		1			
主任保育士	1		1			
保育士	1 1	3	1 1	3		
子育て支援員		2		2		
管理栄養士	1		1			
調理員		5 (2.4)		3 (2.4)		
看護師		2 (1.2)		3 (0.9)		(-0.3)
清掃員		1 (0.5)		1 (1.0)		(+0.5)
計	1 4	1 3 (9.1)	1 4	1 2 (9.3)	± 0	- 1 (+0.2)

清掃員は4時間勤務(毎日出勤)の形態から、保育補助として4時間勤務が加わり、常勤(8H)勤務となったため、非正職員の常勤換算数が増えた形です。また看護師は

常勤が6月に退職し、その後パート職員で対応しましたが、パート職員の産休があったため、全体で常勤換算0.2名増となりました。

【人財育成事業】

① 事業所内研修（石見さくら会保育研究会）

実施した研修	対象者	参加者数	実施した内容・成果等
調理研修	栄養士 調理師		・感染対策の為中止
救急法講習会	全職員	20名	・2回に分けて行いました。
防犯訓練	全職員		・感染対策の為中止
園内研修 ・毎月保育士が講師となり、研修伝達や自己啓発、報告会等実施	全職員	随時参加可能な職員	・職員間で研修を行いました。外部研修の報告や自分の得意分野について伝達研修を行っています。9回は職員が講師となり、残りは園児についてのケース会議などグループ討議を行い、園児についての情報を共有することが出来ました。
人権擁護研修	全職員	全員	・他法人の虐待報道等を受けて、人権についての見直しと、保育の中での虐待事案がないか等の検証をしながら、意識確認をしました。事業所内での統一を図るため、3回に分けて全員参加で確認をしました。
年齢別、主任、調理師の話し合い（隔月）	担当職員	適宜	・情報を交換し、日々の保育の向上を図ると共に、食育の取り組みなどを進めることが出来ました。

② 事業所外研修（外部派遣研修）

実施した研修	対象者	参加者	実施した内容・成果等
邑智郡保育研究会			
・邑智郡保育研究会総会 「グリーゾーンの子	全職員	15名	・グリーゾーンにいる子どもたちへの関わり方と、年齢に合った働きかけや保護者支援について

どもの理解と発達把握」(リモート研修)			学びました。気になる子どもたちがいる中で、保育のヒントと方向性を得ることが出来ました。
・実技研修 オンライン研修	全職員	10名	・鈴木翼氏を招いて運動遊びやリズム体操などの実技を体得しました。
・郡調理研修		3名	・アレルギー食や乳幼児期の食事について学びました。
島根県保育協議会・島根県社会福祉協議会(人材センター)			
・キャリアパス対応生涯研修「チームリーダーコース」	係長・主任	2名	・チームリーダーとしての役割を学び、意識改革を行いました。
・キャリアアップ研修「幼児教育」	保育士	1名	・はじめて幼児クラスを担当する職員が幼児教育について子どもたちが主体的に遊べることの必要性などを学びました。
・県スキルアップ研修「子どものことばを育てる」	保育士	2名	・言葉、絵本などを通して五感を育てる重要性について学びました。
・全国大会「奈良大会」第4分科会「保育の中の食育」	主任保育士・係長 管理栄養士	4名	・来年度研究発表が控えているため、参考として第4分科会の報告や検証事項、助言者とのやり取りを視聴する。所長は現場にて来年度の打ち合わせも行う。
・所長研修	所長	1名	・島根大学肥後先生から、「危機管理と管理職の心の持ち方」を学びました。ニュースなどであげられていた「虐待」についても学び、保育現場の確認と職員間での意識統一の重要性を改めて感じ、研修後に伝達研修も行いました。
・中国ブロック保育士会リーダーセミナー「保育におけるデジ	係長・主任・所長	4名	・上越教育大学大学院野口孝則先生より保育のICT化の利点と気をつけなければならないこと

タル（ICT）の適切で効果的な活用」			や、子どものデジタルとの関わり方について講義を受け、現在使用している内容以外のところでの気づきや今後の活用について学びました。
・働き方セミナー	所長	1名	・業務改善の進め方やICT化の活用について学びました。また、長期有給休暇の実践例の話も聞き、参考とさせて頂きました。
・通園バス安全管理研修	主任保育士	1名	・バスの置き去り事件などを踏まえ、バスについての安全管理を学びました。
・異物混入セミナー「害虫・ねずみ対策」	調理	3名	・調理室の害虫駆除やねずみ対策、衛生管理について学びました。
エルダー研修	保育士	1名	・新人のエルダーとして研修を受け、新人の支え役になりました。訪問聞き取りなどもあり、丁寧な指導を受けています。
町内研修			
健康づくり出前講座「健康で長生きする秘訣」	職員	3名	・健康に過ごすためのアドバイスをいただきました。
邑南町特別支援連携協議会研修会「年長時期に必要な発達の見据えた関りと移行支援」	保育士 栄養士	15名	・西部島根医療福祉センター 大野貴子医師より、就学に向けての支援の仕方や支援の必要な子への関りを学びました。学校関係者も多く参加しており、保小連携の重要性を改めて感じました。

③ 事業所間研修

計画上の研修	対象者	参加者	実施した内容・成果等
マネジメント研修	所長 係長 主任	1名 3名 2名	・業務に対する姿勢や目的意識など、人材育成のフィードバックの重要性などマネジメントについて科学的に学ばせていただき

			ました。日々の実践も行いながら、学びを実行へと移すことの重要性を感じ、研修後の振り返りに、新たな決意と反省を感じています。
人権・権利擁護研修	職員	12名	・老人ホームの歴史から、人権の重さや、時代の流れの中での活動家による取り組みなどを学びました。

【地域との関係強化への取組み】

実施した事業	事業内容・成果等	KPI	KPI 実績
ボランティアの受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・お茶会の講師、おはなし会、わらべうたのボランティア受け入れ。 ・コロナの小康状態の時のみの受け入れとなりました。(昨年度より減) 		・貴重な体験となっています。

【生産性向上への取組み】

実施した事業	事業内容・成果等	KPI	KPI 実績
ICT化(「はいチーズ」システム)の有効利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT化システムの利用が定着し、間接業務の時間の短縮(登降園の時間確認、保護者への連絡業務、連絡事項の一斉配信、保育の様子配信の可視化、保護者からの欠席連絡)が出来るようになっていきます。 ・コロナ発症時には、システムを使って連絡配信や配信の受け取り確認が一括で出来た為、保護者への対応がより早く行えました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員数の削減 ・休憩時間の確保 ・直接保育業務の時間の増加 ・残業の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は最低限の人数で業務にあっているため、削減は行っていません。 ・時間の有効活用は出来ています。
職員育成	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の育成を進めることで、勤務年数の浅い職員でも安心して保育を任せることが出来るようになりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士の質の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・1級職員も保育業務を任せることが出来ています。

【施設整備事業】

実施した施設整備等	実施した内容等
テラス(床・手すり・柱)の塗装塗り替え	塗装が剥げてきており、劣化がみられるため塗り替えを行いました。
遊戯室の水銀灯廃止に伴うLEDへの交換	水銀灯の使用が廃止となった為、LED照明と交換いたしました。
コンセント増設工事	パソコンやタブレットなど電気機器の使用度が多くなり、タコ足配線など危険な箇所があった為、コンセントを増設しました。
(梅組)スクエア型埋め込み照明不点灯によるLED照明への取り換え	梅組の照明器具の3か所が故障していた為、LED照明器具に交換しました。使用可能な照明器具は他クラスの不具合なものと交換しています。
エコシルフィ設置	2歳児クラスの室内が、冬場に寒さを感じる為、エコシルフィを設置しました。空気の循環がよくなり、室内の暖房がよく効くようになりました。
園庭倉庫の設置	園庭の遊具が倉庫に入りきらず、雨に濡れているものがあったため、新たに倉庫を園庭に設置しました。
遊具の購入	子どもの発達に必要な遊具(ブロック、ままごと道具、人形等)を購入しました。
絵本の購入	子どもの成長を支える絵本の購入、古くなった絵本の差し替え購入を行いました。
計画外の施設整備	実施した内容等
調理室・IHクッキングヒーターの故障による交換修理	急な故障の為、交換修理を行いました。迅速に対応したため、給食作りに支障はありませんでした。
新型コロナウイルス感染予防対策としてクラスへのCO ₂ 測定器配置(6台)	新型コロナウイルスの感染予防対策として、室内換気の重要性を感じ、各クラスにCO ₂ 測定器を購入し設置しました。
設計事務所による換気などの建物調査	ヤマシタ設計事務所に保育所の換気状況の検査を行ってもらいました。換気扇の活用が重要であると指示を受けました。今後の感染症対策に生かしたいと思います。
大型遊具 網ネット太鼓橋の修理	ネット部分が劣化し、切れて落下の危険性があるため、網の交換をし、土台の枠の塗装の塗り替えも行いました。

【積立の状況】

(単位：千円)

積立目的	計画	実績
再建設	3,800	3,397
大規模修繕	600	559
その他	400	344
計	4,800	4,300

※施設整備等のため2,327千円の取崩を行っております。

園児の途中退所や0歳児の入所取りやめなどで委託収入が減り、計画より減額となりました。

【感染症・災害への対応への取り組み】

- ・災害対応については「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」に沿って、月一回の避難訓練と振り返りを行いました。実際の訓練を通して見直しを行い、職員間で動きの確認を行いました。感染症に関しては、BCPの見直しと共に、職員の役割や体制について話し合いを行いました。
- ・感染予防、安全対策の実施を考え、安全計画書を作成しました。

IV. 苦情解決（要望含む）の結果について

令和4年度において、以下の苦情が寄せられ、解決を図りました。

【苦情1】

- ・発生日：令和4年5月24日
- ・申立者：不明
- ・苦情内容：『「こらー 走るなやー」
子の声掛けは、正しいのでしょうか
突然の大声に驚きました。』
上記のような葉書きが保育所に届きました。
- ・処理結果：
差出人が不明で、どのような状況での声掛けなのかがわかりませんが、職員間では言葉遣いについての再確認を行い、保育所関係者かどうかわかりませんが、事務所前に以下のようなお詫びの文章を掲示しました。
「先日、職員の言葉かけで気になるものがあつたと、ご指摘を受けました。日頃から、言葉遣い・言葉かけについては、丁寧に行うよう心掛けておりますが、不適切な発言があったことをお詫び申し上げます。」
今後も子どもたちに聞かせて恥ずかしくない言葉遣いや、子どもたちが安心できるような言葉かけが行えるように職員で確認し合いました。

- ・第三者委員の関与：解決結果を報告済み

【苦情2】

- ・発生日：令和5年3月8日
- ・申立者：保護者の方
- ・苦情内容：

園児が、夕方園庭で遊んでいる時に、はしゃぎすぎてせき込みと同時に嘔吐してしまったことを保護者が迎えに来られた時に遅番の職員が伝えていましたが、お迎え時に園児が「もっとビデオがみたかった！」と激しく泣き、帰らないと抵抗された為、保護者はそのことで余裕がなくなったものと思われれますが、翌日の早番の職員が、昨日の嘔吐のことで「あれから大丈夫でしたか？」と尋ねたところ「そんなこと（嘔吐の件）は聞いてない」「病院へ行ってくる」と腹立たしいご様子で病院に行かれた。

- ・処理結果：

夕方の遅番職員が、嘔吐のことを伝えていたことは、周りの職員も聞いておりましたが、聞いていないという保護者の言葉とは相異なりますが、園児が激しく泣き、保護者の言われることを聞かれていないご様子から、職員の言葉が耳に入らなかったことが考えられました。保護者に話を伝えるときには、状況を見ながら伝え、最後に伝わっていることを確認することも大事なのではないかと職員間で再確認しました。保護者に対しては、伝え方が悪かったことをお詫びしています。

- ・第三者委員の関与：解決結果を文書にて報告済み

以 上